

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.18

～すれっしょるど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュホールドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



守られていたことに気がつく

何もなかったかの様に年末年始は過ぎ去り、寒さの中でも太陽の暖かさを瞬間瞬間で感じる日々が続いています。私たちダルクスタッフも、回復支援という立場にしながら、最も自身のリカバリーに力を注がなくてはならないことを感じる毎日でもあります。私たちも入寮者だった頃があります。今思えば、必死に生きていた様にも思いますが、守られて、のぼんと今日一日を生きていたことを思い出します。「あの頃は今思うと楽しかった」と苦痛しか感じていなかった様な日々を思い出すと、その様に感じるのはなぜでしょう。

私自身、ダルクからクリーン4年目で一旦離れて、社会での生活にトライしました。その初日に実感したのは「自分の力でここまでやってきたつもりでいたけど、ここまでやってこれたのは仲間の中にいたからだけだったんだ..」ということでした。それに気が付かず命を落としたり、再発したりする仲間がいることも自身の身で初めて感じました。そうです、僕は回復を歩み始めた時からずっと仲間の中で守られてきたのです。回復という時間を過ごすために、他の背負ってるものも全部下ろして好き勝手に、笑ったり怒ったりすることができたのも守られていたからでした。私は今その守る側に寄り添っているのかもしれませんが、そんな寄り添うことは、私たちのこれからの回復を逆に与えてもらっていることを漸く感じれる様になりました。悲しい時にやっと泣ける様になりました。仲間を許せる様になりました。私はきっと今でも守られているのでしょう。「仲間と共に」私が一番嫌いだと言葉が、私に最も必要な言葉だったのです。神に感謝。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

エイサーで地域とつながる

スタッフ 濱津 太一

いつも神戸ダルクヴィレッジにご支援、ご協力頂きありがとうございます。

一昨年より神戸ダルクヴィレッジでは沖縄の伝統芸能エイサーをプログラムに取り入れてきました。助成金を頂き太鼓、衣装などが揃いました。全国のダルクでは多くのダルクが既にエイサーをプログラムに取り入れ色々な場所で活動しています。

なぜ全国のダルクでエイサーのプログラムが盛んになって行ったのか、そのルーツを辿りますと、もとは沖縄ダルクから始まりました。現地の方達に伝統芸能であるエイサーを教わり、元気になって行った回復者達が自分達の回復にも効果があったエイサーを全国各地に広めエイサーをプログラムに取り入れたダルクが増えて行きました。僕自身もかつて沖縄ダルクでエイサーを学んだ1人でありました。まさかまた10年振りにエイサーを叩く機会がやってくるとは思いませんでした。代表の梅田に声をかけて頂き、仕事の休みの日を利用して初めて神戸ダルクに伺った日を思い出します。原点回帰でした。

神戸ダルクヴィレッジでは日々、エイサーの練習に励んでおります。練習により身体が元気に健康になって行く事は勿論ですが、何より効果があるのは精神面、スピリチュアリティの部分の成長、回復だと感じています。先輩の仲間が新しい仲間へ1つずつ教えて行く姿、今度は教わった事を次にやって来た仲間へ教えて行く。魂のリレーションシップを体感して行く中で僕たちの内側に変化が起き始め、薬を使っているとは到底届かない部分が治癒され始めます。魂の回復です。また人前で披露することで自己評価が上がる事も経験していきます。

昨年は病院でのお祭り、老人ホーム等で披露する機会がありました。どちらも終わった後に、目頭をウルウルさせながら「凄く感動しました。また次回もお願いします。」とのお声掛けを頂き私達も益々やる気ができました。絶望の淵からもう一度希望を取り戻し回復にチャレンジしている姿。これは痛みを乗り越えてきた魂のメッセージなのです。

今後の取り組みにと致しましては、赤い羽根共同募金様の助成事業にて、来年度に県内6カ所で依存症啓発フォーラムと題して従来のセミナーと一緒にエイサー演舞も披露させて頂く予定です。私達が神戸の街で皆さまに支えられ回復を実現して行く中で微力ながら私達が出来る事、それは感謝の気持ち、恩返しの気持ちを込め神戸の街に元気を届け活気づけて行く事だと感じています。9月にはリカバリーフェスと題して、音楽などのイベントを布引ハープ園で予定しています。

依存症は回復可能な病気です。回復には地域の方のご理解やご協力が必要不可欠なのです。回復にはチャンスが必要です。エイサーを通して地域の方々と交流を深めて行く中で依存症に対する偏見や誤解が無くなって行くことを願っています。

また3月にはコミスタ祭りにタコスとエイサーで参加が決まっています。来年度は神戸祭りにもエントリーしています。練習場でお借りしている、青少年自然の家さんからもエイサーの依頼が入っています。エイサー依頼の際はどんどんお声掛け下さい。また地域のイベントや地域行事の際は設営や撤収作業だけでもお声掛け下さい。男手はありますので何でも出来ることありましたらご協力させて頂きたいと思っています。まずはどんな事よりも地域の方々たちとの交流や触れ合う機会を望んでおります。

依存症の回復には地域社会のご理解とご協力が必要です。これからもどうぞ暖かく見守ってください。どうぞ宜しくお願い致します。



ダルクを卒業して

スタッフ 俵 雅彦

皆さんこんにちは依存症のヒコです。この度、自分はダルクを卒業しました。しかしあまり実感がありません。というのも今までとあまり変わらずダルクで生活をしているからです。仲間と共に寝起きして、一緒にダルクに来て1日が始まるという生活を続けています。その生活は自分が望んだ方法です。仲間の中にいないと不安だからです。ダルクのスタッフという道を選択しました。今までと違うのはまず、通所記録にサインをしなくなった事、代わりに作業日報を書いたりタイムカードを押したりします。月に決まった休みをもらえるようにもなりましたし、お金や薬なども全部自己管理になりました。何もかも自分でするようになり、自由が与えられました。しかしその自由には責任も伴います。月の決まった休みも何をすればいいのかすごく悩みます。1人で過ごす休みは今の所映画を見に行くのがやっとです。この休みもいずれかはもっと有意義に使いたいです。例えばN Aの仲間と食事やショッピングなどしたりなどなど。ダルクに繋がる前の生活に戻らないためにも、ダルクに居続け仲間と共に生活をして、今までとは違うモラルある行動をしていきたいと思えます。今、事務所の手伝いをしています、なかなか大変でいつの間にかすることがたまってきます。特に、パソコンが苦手でパソコンの前に座るのが億劫です。いつかスラスラと打てるようになればと思います。



RSC 会議に参加して

スタッフ研修 タカ

こんにちは、アディクトのタカです。このたび日本全国の NA 各エリアの代表・副代表・役割をもった人たちのあつまる RSC 会議に参加してきました。RSC 会議は年に2回東京で行われているとは、聞いた事がありましたが自分がこの会議にオブザーバーとはいえ参加しているということは本当にありがたく、これこそハイヤーパワーだなと思いました。

以前グループの代表 GSR をやらせてもらっていたときエリア会議には参加していたのですが、どうにかこうにかでやっていました、その時エリアの代表をすごくカッコイイ、すごいと思って、いつかあんなふうになりたい。もう雲の上の存在って感じでした。そのような人達の集まる RSC。現地にウメさんがいるとはいえ、1人で行く東京すべてが緊張と不安でした。

会場に着くと、自分が感じたのは初めて会う人達ばかりなのに、全員が昔からの知り合いみたいな温かい感じがして不安はすぐなくなりました。会議の内容はついていけない部分もありましたが、とても良い経験をしました。鶯谷の NA にも参加してきました。そこでもウェルカムは半端なく、もっともっとダルク、NA、仲間を好きになっていきたいと思っています。そして楽しく!! NA の目的を一番に!!

ウメさんのおかげで仲間がどんどん増えていく事、自分が成長できる事、感謝です。



震災の集いに参加して～回復という希望の灯り～

ヨシ

凄まじい轟音、大きく軋み揺れる部屋、そして寝ている僕の足元に崩れ落ちた父の旧式のレコードスピーカー。当時、小学六年生だった僕の震災当日の朝の最初の記憶の風景です。六千を超える尊い命が犠牲になった阪神・淡路大震災から、四半世紀の月日が流れました。比較的被害の少なかった西宮市のK地区に住んでいた自分ですが、ライフラインのガスが復旧するまでにはかなりの時間を要し、種々の不便さを強いられた生活を余儀なくされました。

「1.17のつどい」当日は、深夜二時すぎに起きて四時に会場入りしました。復興から「回復」へ、そして更なる発展を遂げた神戸の街ではもしや悲惨な災害の記憶は風化してしまったのではという車中での僕の懸念は杞憂となり、大寒直前にもかかわらず会場の東遊園地には人が溢れかえっていました。我々神戸ダルクヴィレッジのメンバーは、買ったばかりのお揃いの真っ赤なウィンドブレーカーに身を包み、前日設置した竹灯籠のチェック作業に余念がありません。「きざむ 1.17」の文字を象った立派な竹には一つひとつ、参加者が思い思いの言葉を墨で記してあります。周りのものと比してひととき大きな竹に、僕は「希望」という文字を綴りました。

実は、僕が初めて神戸ダルクを訪れたのは、ちょうど一年前の震災の集いの前日でした。四度目の精神病院の入院中に外泊を兼ねて見学したのですが、迷った挙句に「一人でなんとかなるだろう」と高を括り結局そのまま退院してしまい、あっという間に元の酒浸りの生活に逆戻りしました。五度目の入院の退院日にこの施設につながり、三カ月という節目となるクリーンの記念日をこの日に迎えることになるとは不思議な縁を感じました。

「ピッ、ピッ、ピッ、ピーッ」という5時46分を告げるスピーカーからの時報の音と同時に周囲のライトは一斉に消され、参加者が黙祷を捧げます。蠟燭を浮かばせた無数の竹灯籠の灯りが目の前に広がり、互いが互いの文字と取り囲んだ人々の神妙な顔を照らし出して静謐な光景です。僕はそっと目を閉じ、犠牲者の鎮魂を願うと共にこう祈りました。回復という希望の灯りに火が灯りますようにと。



体験談 苦しい時は支えてくれる

マサト

僕は中学生の時、友達と一緒に虐められていました。高校に上がってすぐに色々な友達ができ、そこでシンナーを吸うようになりしました。でも、もともと性格がおとなしかったこともあって暴走族の友人達についていく事が出来ずに当時交際していた彼女にもふられ、一人でシンナーを吸うようになりしました。そして、16歳の時に初めて精神病院に入院しました。その後ずっと悪になりきれないコンプレックスから周りの友達たちも覚せい剤をしていたせいもあり、これさえすれば悪になれる、もう友達に置いてきぼりにされなくなると思い、覚せい剤に手を出してしまいました。その後、色々なドラッグに手を出すようになり、勘ぐり、妄想、恐怖心が酷くなって精神病院に何度も入院しました。

そして、精神病院のケースワーカーさんに、神戸ダルクに行ってみないかと聞かれて二つ返事で神戸ダルクに入寮しました。今は、昼間は畑で作業をしたり、夜はNAでミーティングをしています。覚せい剤の後遺症で勘ぐり、妄想、恐怖心が毎日襲ってきます。一人暮らしをしていたときは、誰にも助けを求める事が出来ませんでした。しょうもないプライドや見栄や僕を邪魔していました。でもダルクに来てからは素直に助けて欲しいといえましたし、仲間も本当に暖かくて色々、助言や愚痴を聞いてくれます。心が悲鳴をあげているときは、仲間が無理をせずに少し休んでいったらいいよと声をかけてくれます。またNAでは、ダルクだけじゃない人達の話もたくさん聞けます。苦しいのは僕だけじゃない。仲間も僕も昔の古い生き方を捨て、新しい本当の幸せは自分自身でこれから見つけてあげていくことを自分自身に言い聞かせながら、毎日のプログラムに取り組んでいます。今、本当にダルクに繋がれて良かったと思っています。偽りの自分を演じなくてもいいし、等身大の自分でいられるし、苦しい時は支えてくれる、寂しい時にはそっと背中を押してくれる仲間がいるから…



すべてに感謝～畑編～

ヒロ

僕は去年の3月に神戸ダルクに入寮し、自分の回復について日常を通して学ばせてもらっています。薬物依存症のヒロといいます。神戸ダルクのプログラムの一つに畑と言うものがあり、そのプログラムに僕が最初に参加したのが去年の3月か4月頃で僕がダルクに入寮して間がない時の事でした。畑というプログラムですから少年時代に施設で経験したジャガイモ畑や大根畑のイメージ、それも広い畑の…(笑)そんなイメージを持ちながら車に揺られ、現地へ行ったことを思い出します。

いざ畑へ！現地に着いてクワやスコップを手にし、行ってみると荒れた地の小さな農園で雑草が生え、畑というよりも草むらの様なそれも土質も粘土っぽくて、そんな状況の畑作業の始まりでした。話を聞くと、このプログラムその頃取り入れたばかりのようで何から何まで0からのスタートで、まさに開拓!!って感じでした。少年時代、嫌々矯正教育のなかの畑・農作業の経験でしたので深い知識はなく、薄っすら体で覚えている程度ですが段々作業を進めていくうちに最初土方仕事で土をひっくり返すことから始まり、塊の土をほぐし、土を寄せ、畝を作る、そんな建設的な作業が心地よくなってきました。荒れた土地を耕し、少しずつ形にしていって、どんな野菜を植えるのか思いを巡らせ土壌作りです。そんなこんなではじめた畑。恐いですね～アディクトって(笑)。畑の知識がないのに情熱が先で知識が後…失敗の連続でした。遠回りしながらですが、ひとつひとつ形になってきました。

最初の畑は小さな所から、次に借りたのが最初の何十倍もの畑、そこにはコンポストを設置し、自分たちの食事から出る生ごみを土にかえし肥やしにする、など意外とエコで自然の循環というのか、そんなところまで出来るようになりました。そこには畑作業というより自然の中でのんびりと時を過ごす、そのついでに畑でもしょうか、といったコンセプトがあり、ウッドデッキも建設予定の僕たちの畑。

あ、そうそう、こないだ隣接している畑で今の畑の倍くらいの畑、情熱を抑えきれず新たにスタートしました。一番上段の大きな畑、ここでは今までの失敗を踏まえてゆっくりと計画をたて進めていけたらなあ～と思います。知識の浅い僕ですが何事もはまりさえすれば集中できるのです。失敗しながらでも情熱をもって取り組めば後は神様が実を結ばせてくださるそんな気がします。

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。」

今、与えられている全ての事に感謝です。



ファーマーズマーケットを訪れて

ニッシン

施設で去年から畑をはじめ、試行錯誤の連続でしたが色々な野菜を少しずつ収穫することができました。形はいびつですが美味しくいただいています。三宮で開かれている「ファーマーズマーケット」に行く行くは出店できたという代表の思いがあり、今回訪れることになりました。

購買者として興味をそそるものが沢山あり面白かったです。有機栽培で育てた野菜はもちろんのこととして、一般のスーパーマーケットと違い、店員とお客さんとの距離が近いと感じました。距離感が近いと感じたのは、「会話」をととても大切にしていることが伝わったからです。その「会話」を引き出すために、野菜に興味もってもらう展示の仕方やさりげなく栽培の方法や調理法を写真で提示しているようでした。試食の提供もあり、素材そのものの味をありのまま知ってもらい、分かりやすくお客さんに伝えたいようでした。黒板調のディスプレイや木の看板・市場で使っている野菜箱、店員も農作業服や天然志向な服装で、マーケットの雰囲気を作っていました。

ファーマーズマーケットに出店するには、まずは心の底から美味しいと思っていただける野菜作りをすることが大事であると確信しました。そのためには、農業に詳しい人に聞くことや仲間とともに作業をし、失敗を恐れずやることが大切だと思いました。出店が決まったら、お客さんが「買いたい」と思えるような接客スキルや店舗準備をしていけたらと思います。



ソーシャルキッチン初出店の日を迎えて

スタッフ 梅田容子

この1月、三宮のサンパル内にあるソーシャルキッチンで沖縄タコスの販売をさせていただきました。ソーシャルキッチンは一日単位で借りることができる飲食系の店舗です。他地域で店舗を構えておられる方が顧客層を広げるために一日出張支店のように出店されたり、こちらで集客や宣伝を兼ねて定期的に出店される方がゆくゆくは自身でお店を出されたり、みなさんそんな使い方をされているようでした。

今、神戸ダルクでは、生活訓練事業所としてのダルクを卒業した仲間の次なるステップである就労の場としての居場所作りをしています。一つは本当に美味しいと言ってもらえて、尚且つカラダが喜ぶ野菜作りです。そしてもう一つはその野菜を使って美味しいタコスを提供できるカフェです。今回のソーシャルキッチンはそんな仲間たちの社会での居場所作りとしての第一歩でした。

当日は初日ということもあり、まずは雰囲気を読むこと、慣れること、というのが目的でもあったので、さほど宣伝もしていませんでした。にもかかわらず、少ない情報を頼りに来店してくださった支援者や仲間たちがいて、本当に嬉しかったです。通りすがりの方も「どんな食べ物ですか？」と沖縄タコスに興味を持って話しかけてくださいました。仲間は緊張で顔を強張らせていましたが(笑)。

一日やってみて、色々な改善点も見えてきました。ほんの僅かな売り上げですが(むしろ赤字ですが)、素面で接客することの新鮮さ、マナーや衛生面など飲食店としての基本、仲間へ手渡すだけでなく自身も新たに覚えていけないといけないこともたくさんあり、大切な学びと成長の時間になりました。今借りている商店街で、地域とつながるカフェを開店できる日が一日も早くやってきますように。



活動報告

12 月 13 日～

日本キリスト教団神戸市民クリスマス会ミサ参加
依存症家族セミナー in 神戸開催
あなたの声を届ける勉強会 in 名古屋開催
さくら苑 太鼓演奏
ファイザー製薬助成贈呈式 新宿
加古川学園メッセージ&家族講演&相談援助
日本子ども虐待防止学会参加
あなたの声を届ける勉強会 in 九州開催
ファーマーズマーケット視察
エンカウンターグループ研修会開催
クリスマス会開催&クリスマスミサ参加
ホースセラピーの会シンポジウム参加
おせち作り
年越しフェローシップ

1 月

初詣 西宮東
六甲山&摩耶山見学
西宮アディクション問題を考える会参加
ソーシャルキッチン タコス販売
震災の集い準備ボランティア&参加
川崎ダルク&東京ダルク訪問&インタビュー
丹羽市立福田小学校講演
和歌山ダルク訪問
群馬ダルク TC プログラム開催
関西ダルク施設長会議 in 大阪参加
高松刑務所メッセージ
松山刑務所メッセージ
中央区生活支援課来訪

アゲインファーム ボランティア 月2回
垂水病院メッセージ 毎月第3火曜日
垂水病院スマーブ 毎週金曜日
神戸保護観察所スマーブ講師 毎月1回
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
明石保健所家族相談 毎月1回
出張家族相談月2回

近況報告・活動予定

やっと5月1日より、須磨区の方で5名定員のグループホームを開設できそうです。畑が直ぐ近くにあり、ゆっくりできる安定した仲間の居場所がようやく出来そうです。太鼓の依頼やタコスの依頼、畑に加えて、雪が溶ければログハウスの本格的な工事が始まります。それに合わせて、スタッフの研修事業や、新たなプログラムの開発・提供と、相変わらず忙しくしていますが、仲間同士の繋がりが深まる様な計画を立てていきます。新しい仲間が繋がっていく中で問題もありますが、みんなでその問題を解決する今日一日。これまではスタッフが解決していましたが、今は仲間みんなで解決しています。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュホールド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただければ幸いです。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の実業依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々との文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談
相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間OK。 kobe.darc@gmail.com



神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

上内鏡子様 香川真二様 日本基督教団神戸米光教会社会委員会様 北村央恵様 新田正彦様

ご献品

太田拓弥様 谷家優子様 神戸市社会福祉協議会様 兵庫県更生保護女性連盟様

(令和2年1月1日～令和2年1月31日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

いつもご支援いただき誠に有難うございます。毎回のお願いで本当に心苦しく思いますが、神戸ダルクでは、最近メンバーが増え、みんな薬物が止まり始めると、ご飯を非常にたくさん食べます。節約して料理長がおいしいご飯を作ってくれていますが、お米がほとんどなくなってきました。

お米の献品がありましたら非常に助かります。

神戸ダルクでは、仲間の居場所としての寮・グループホームなどの設置に奮闘しています。そこで使うような備品がなかなか揃いません。ご家庭で余っている日用品や家電製品などもありましたら、ご連絡ください。特に5月から始まるグループホームの備品が揃いません。ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。グローブ・自転車などもございましたら是非譲ってください。たくさんありましたら、車で取りに行くこともできます。

回復支援の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

健康という言葉とは無縁の薬物依存症者だった僕らが、健康について雑談する日々が滑稽に思える時があります。散々自分の体を痛めつけてきたにもかかわらず、今では健康に良いことには目がないというか。。。

というのも、昔は、生きる希望なんてものはありませんでしたが、今は「生きていけそうだ」という普通の人には分からない様な安心があります。だから生を高めるといふか、長生きしたい。そして人生を楽しみたい。そんな気持ちで、僕らの健康談義の裏側にあります。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.18

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田博規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階